



「良書ご案内」

書籍名	宗教の地政学	著者名	島田 裕巳
出版社名	MdN 新書	発行年月	2022年10月

本書は、世界を考えるための「ヒント」満載です。人類は古代から絶え間なく戦争を繰り返してきました。世界史を学ぶことは、戦争の歴史を追いかけることになります。本書は、宗教の歴史から世界史を語っています。読み進めると、「そうだったのか!」「なるほど!」の連続です。では次の質問を考えてみてください。

1.現在キリスト教徒23億人、イスラム教徒18億人、ヒンドー教徒11億人、仏教徒5億人、民族宗教4億人、無宗教12億人と推計されています。

2060年の宗教の勢力図を予測してください。未来の世界の姿が浮かんできます。

2.アメリカの大統領選挙は、宗教が大きな影響を与えています。アメリカ大統領の決定は世界を動かします。アメリカでは、カトリックよりもプロテスタントの方がはるかに多く、プロテスタントの中でも福音派が主流派を上回る最大勢力となっています。2016年の大統領選挙では、白人福音派の8割がトランプに投票しました。アメリカの宗教地図は今後どうなるのか?

3.西ヨーロッパでは、キリスト教離れが進み、イスラム教の信者が増えています。信者の減った教会が売りに出され、モスクとして買われています。

先進国として長く君臨し、世界の秩序を維持してきたヨーロッパの時代、G7は終焉するのか?

イスラム教が世界の大勢になる社会は、一体どのような社会なのか? 世界の平和、安全保障は?

4.仏教はインドから消えました。その原因は?

東南アジアは、これから経済が発展し、人口が増えます。平均寿命も伸び、人々の生活は豊かになります。

アジアの仏教国家は、今後どのように変貌を遂げるのか?

5.日本では、1950年代半ばからの高度経済成長の時代に創価学会をはじめ新宗教が急速に拡大しました。新宗教はなぜ巨大教団として発展したのか?

経済成長がなくなり、人口減少、少子高齢化の日本、10年後の宗教の構図は?

本書から世界の動向、未来の姿が今までとは違った形で見えてきました。

歴史に対して新しい視点を獲得することができました。

岩城

ウクライナに続き、ガザ地区の紛争まで始まり、円安が続く日本は日銀が金融緩和をいじり始めたが、捗々しくない経済状況、国は借金を増やし目先の減税に走る。どうする我が国? そんな折、地域行政に頼もしい人たちが現れている!?

1人は広島県安芸高田市の石丸伸二市長(41歳)、もう1人は兵庫県芦屋市の高島峻輔市長(26歳)。

ちょうど同じタイミングで2人の存在を知る。ご存じの方も多だろう!石丸市長は今どきのYouTubeに、議会における市長と市議との会話などが上がっているので百文は一見に如かず。ご覧あれ!保身に走り、新勢力の市長に太刀打ちできず、逃げてばかりの現市議に「恥を知れ、恥を!」と喝破。気持ちいいこと甚だし。そんな市長に興味を持った大学生が研修を兼ね、安芸高田市を訪れ議論する。元銀行マンだった市長はプレゼンも秀逸で大学の講義さながらの様子。市長の今後に期待し帰路へ。

大阪府箕面市出身だが芦屋市長になった高島氏、灘中高⇒東大⇒ハーバード大⇒NPO法人理事長と変わった経歴の持主だが、大学休学後、帰国し芦屋市でインターンとして働いたその3カ月が市長になるきっかけとか。比較的堅調な市の財政状況、都市部へのアクセスが良く自然も豊かな住環境を魅力として挙げ、学生時代に見て回った米国のポートランド、ニューヨーク、ボストン、北欧各国の都市と比較しても芦屋のポテンシャルは高いと力説。

高島市長の後は、若者の「意欲」をつくる仕事。「のちの世代のために、新しい道や可能性を切り拓く」という軸に基づく。多くの人々が“世の中を変えてほしい”と期待を掛けるリーダーたち。それはきっと彼らの今までとは違う発想の豊かさや実行力のある勇気と将来への可能性に目が奪われるから。解散!総選挙とどこかの首長が言うなら、こちららも覚悟

発行所: 株式会社ライフデザイン研究所

を持って選ぶ心眼が逆に試されている。その機会を無駄にせぬよう備えるべし。

所在地: 〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サビル2F Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 編集人 伊藤